

INDEX

(特別寄稿) 東日本大震災に思うこと …1~2
第2回経営研修会 …………… 2
会員企業訪問・有桜木観光 …… 3
旅行・朝食例会報告 …………… 4
会員異動/スケジュール …… 4

特別寄稿 東日本大震災に思うこと



東日本大震災から2カ月余が経過しました。私たちはこの未曾有の災害に大きな衝撃を受けました。震災に伴う原発事故の恐怖にも襲われています。日本を一変させたこの大震災についての思いを会員の皆様から寄稿していただきました。

震災の恐怖体験と「災害情報」に思う

山崎 栄一

3月11日、その瞬間。私は、浦安市の一番海べりの高層マンションにいました。直後、「互いに無事に自宅に戻れるように」とお客様と声を掛け合い、エレベーターに閉じ込められた人たちの思いやるゆとりもなく階段を下りると、周辺は泥水だらけでした。敷きつめられた新しいタイルにも亀裂が走り、大きな段差が幾所にもできていました。

新浦安駅周辺では、道路が水に浮かべた木の板のようにうねり、バシッと割れた下から泥水が凄まじい勢いで噴き出してくる。そんな光景を「これは、一体何なんだ！本当に帰れるのだろうか？」と、不安で背中が凍り付くような思いでハンドルを握っていました。

江戸川べりの眺望のよい道路に辛くも抜けられて、周辺を見渡すと、幾筋もの火事と思われる煙が上がり、救急車とも消防車ともしれないサイレンが随所から聞こえていました。携帯電話は繋がらない。家族の安否も、店の様子も知るすべもない。長い5時間でした。

戻ると、店周辺は被害もなく、浦安で見聞きしてきた出来事が夢のよう。テレビで流れる情報は東北の壊滅的被害の

映像ばかり。千葉市の海浜地区に浦安なみの被害があったこと、千葉県でも津波の被害が甚大だったことなどを知るのには、ずいぶん後になってからでした。

原発事故の報道でもそうであるように、多くの情報にさらされているながら、「肝心な身近なこと、何が本当なのか」を知ることが非常に難しいのだということを初めて知りました。

テレビに偏らないもっと身近なネットワーク。たとえば、月星会のホームページを利用するなど、会員同士が互いに発信し合う、何かよい情報源を確保したいと思う昨今です。

被災地のボランティアを体験して

門山ひろあき

先日、ゴールデンウィークを利用して、宮城県の被災地に災害復旧ボランティアに行ってきました。防災センターで町の女性職員が最後まで避難を呼びかけた志津川から数キロメートルの現場でしたが、テレビの映像そのものの状態でした。電気等のインフラは復旧しておらず、また、自動車や船舶が横転している状態のまま、瓦礫もそのままの状態でした。

私たちボランティアは、瓦礫の除去と奇跡的に残ったお寺の本堂の雨漏りについての応急処置を行いました。物資も不十分な中、手作業での対応でした。

被災現場を見て思ったことは、現場の悲惨さはテレビ等で見る以上に心に深く感じられたことと、なぜ震災から2カ月にもなろうとしているのに、未だに避難所で生活し、また瓦礫が全く除去もされていないのであろうかという疑問

でした。

毎日、あたり一面瓦礫の状態にある現場で集団生活を送っている被災者の人たちのことを考えると、とにかく「何とかしなければならぬ」という気持ちが湧き起こってきました。

現場では警察官や自衛隊の方々など多くの人たちが一生懸命作業をしていましたが、たとえば瓦礫の除去については私たち素人のボランティアだけでなく、廃棄物処理の専門家を県外から広く募り、また瓦礫についての所有権の制限等を災害復旧特別法の速やかに制定によって可能とし、専門家による大規模かつ迅速な除去を行うなどのことが大切であると思いました。

災害復旧について国ができること、国にしかできないことは沢山あります。政治がきちんと国民のために動かないことにより、被災者の方々が二次的被害とも呼べるような状態にならないようしっかり訴えていきたいと思っています。

原発事故と放射能に思う

林 理智子

「オーイ！土地の人たちや、どいてくれ！逃げてくれ！もう我慢が限界なんだよ！何百年のひずみがもう限界だよ！地震とともに起きる津波を知っていながら、なんでこんな海の近くに家を建てるんだよ！悪いな！悪いな！もう限界だよ……あああ～」

何百年に一度は起きると予知し、人間が自然と共存して生きていくことを納得したうえで住んでいた土地に地震と津波が襲ってきました。

原発は違う！「絶対に安全」という創作神話を信じて

人々はリスクを容認した。便利さに慣れ、どこまでも追求する欲望。文明の利器という名のもとで推進されてきた結果です。でも、ここまで来たら怯えたり情報に振り回されたりするだけではなく、自分で守るしかないと思います。

長崎の原爆当時、爆心地から1.4キロにあった聖フランシスコ病院の関係者が全員被爆しました。その時、内科部長の秋月博士が、放射能は極陰性（体を冷やす）の物質だから極陽性（体を温める）の食品を摂るべきと判断したのです。

「水（陰性＝冷やす）は飲むな！塩水を飲め！濃い味噌汁（具はわかめ、カボチャ）、梅干し、玄米に塩をかけて食べる！甘いものは絶対に駄目！砂糖（陰性＝体を冷やす）は絶対にいかんぞ！」

その結果、聖フランシスコ病院の人々からは誰一人原爆症状が出ませんでした。

チェルノブイリ原発の時、日本から大量の味噌が輸出されました。味噌に含まれるジコピリン酸というアミノ酸は放射性物質を排泄する力があり、伝統製法の味噌や醤油、梅干し漬物といった発酵食品には塩気とアミノ酸、クエン酸の両方が含まれるので放射線対策にはピッタリの食品です。先人の知恵に感謝します。

ここで言っている塩は科学的に作られた塩ではなく天然製法で作られた体に必要な塩のこと。塩と水があれば20日は生きられます。十月十日母胎内で命をむ羊水は塩水。危篤の時に打つエンゲルC液も食塩水。熱中症対策にも塩が効きます。陰性の食べものを避け、身体を温める日本の伝統食を見直すことも、この危機から脱出できる手だてではないかと思っています。

第2回経営研修会 平成23年4月16日 ホテルグリーンタワー千葉

大震災後の環境問題を考える

— 地球温暖化とエネルギー問題 —

4月16日ホテルグリーンタワー千葉において、第2回経営研修会を開催した。当初の予定日が講師・会場の都合で変更になり、また、講師の紹介者である小川智之研修副委員長の選挙もありと、準備に他難をきわめました。

さらに東関東大地震も重なり、すべての会合が自粛ムードの中、研修委員のメンバーの熱い思いと一致協力の元、無事に開催されました。

すずらん会を始め多くの関係者の協力を頂き、多くの参加者を得て会場は満席となり、一時は立見も出る程でした。

講演テーマが、放射能と環境問題だったので、一番関心が高い時期で少しでも知りたいと思う人が参加して下さった様です。グッドタイミングの題材でした。

講師が懇親会に参加されたので終始はなやかなムードの中で懇親会も楽しく有意義な会となりました。
(プラント東葉 小野)



講師：北野 大氏



第5回 (有)桜木観光

人を惹きつける人間力と真摯さで 観光事業を拓く

前年比95%減の震災危機にもめげずに前進中!

師は「相田みつを」と「空海」

あなたがそこに ただいだけで
その場の空気が あかるくなる
あなたがそこに ただいだけで
みんなのところが やすらく
そんな あなたにわたしも なりたい

ご存じの方も多であろう、相田みつをの詩である。

(有)桜木観光の高柳啓一は、相田みつをの詩を座右の銘とし、『空海』を愛読書とする経営者である。

「相田みつをのこの詩は、私の生きざまであり、信条なんです。『空海』には、生き方や商売の道などいろいろなことを教えてもらっています」

生きざまだと強調するとおり、高柳の周りの空気は、確かにいつも明るい。4月24日、その一端を垣間見た。

月星会・親睦委員会が観桜会の代わりに企画した東北復興支援バスツアー。桜木観光が用意した2台の観光バスに乗り、焼津名物の鯉のたたきや蓮華寺池公園の藤見学を楽しんだ。1台は月星会の30人、もう1台も30人ほどで高柳個人の友人知人を急ぎよ集めたのだという。

高柳は、震災で心を痛めている参加者たちを独特のトークで盛り上げていた。高柳が“そこにいだけで、みんなの心がやすらく”、そんな空気が流れていた。

実は桜木観光も、震災や原発事故の影響で多大な被害を被っている。報道されているように、震災以降、観光地からは人の姿が消えた。桜木観光には毎日、キャンセルの電話。正社員として抱えるドライバーは全員自宅待機。それでも給料の6割は保証しなければならない。

観光シーズンだというのに、保有する7台の観光バスは若松町の駐車場でただ出番を待ち続けるのみ。2台のマイクロバスも静かに佇んでいる。この光景を毎日目にする高柳や社員たちは穏やかな気持ちではいられないだろう。

同社観光事業における4月の前年同月比はざっと5%。つまり95%減という酷さである。5月に入ってわずかに客戻りの兆候は見られるものの、明るい展望とは程遠い。

桜木観光にはもう一つの柱として運輸の事業があり、落ち込みのない運輸事業でなんとか凌いでいる。というのはいつもの、観光と運輸の売上シェアは半々。したがって、会社全体で前年比およそ5割割となるのだが、やはり異常な数字であることにはかわりない。

これほど急激な売上減に陥ってしまったら、社長や幹部、あるいは社員たちからも笑顔は消えるであろう。

しかし、桜木観光の社員たちは元気なのである。落ち込で



いる雰囲気はない。誰よりも、社長の高柳がいつもと変わらず社内で明るく振舞っていた。4月24日のバスツアーに参加した60名は、この高柳や桜木観光のスタッフの明るさに一時、心を救われたに違いない。

3500頁の「自動車六法」を読破!

桜木観光の創業は昭和52年。高柳が27歳の時に千葉で興した個人事業の「桜木レンタリース」が始まりである。

実家は東京で運送業を営んでいたが、東京大空襲で被災し、家業はそれで断ち切れた。高柳は、「もともとの家業に関連した背景はなく、単身で始めた事業」と説明する。

起業する前の仕事は、トラックの運転手や車の営業など。すなわち車に関連しているのだが、それは「車が好きだったから」というきわめてシンプルな動機だった。

車の中でも最も好きだったのがバスだったとか。したがって、事業のスタートはバスのレンタル。中型・小型のバス2台とワゴン車を購入し、レンタカー事業を始めた。

昭和54年には有限会社を設立、翌年にはトラック6台を購入して運輸事業にも乗り出した。この運輸事業で経営を軌道に乗せ、いよいよ「起業した時からの目標」だった観光バスの仕事、すなわち旅客運送事業に挑戦した。起業からおおよそ20年後のことである。

旅客運送事業を始めるには当時、免許が必要だった(現在は認可制)。免許を取得するには筆記と聴聞の試験をクリアしなければならない。

「勉強しましたよ。分厚い『自動車六法』の本を1年かけて必死に読破。3分の1は丸暗記したと思います」

この六法書は、なんと3500頁ある。仕事をしながら日夜精読。「死ぬ思いでした」と高柳は振り返る。

1年目は失敗したが、2年目で合格。平成10年、晴れて観光バスの営業をスタートすることができたのである。

高いハードルを越え、念願の大型バスも購入したあとは順調に展開していった。この成長過程で隠れた力になったのが、相田みつをと空海だったのかもしれない。

人を惹きつける明るさと、目の前の利益にこだわらずコツコツ進める真摯さ。この生きざまと信条が、事業を一步一步拡大していく推進力になったに違いない。「自分から仕事くれと言ったことがない」という高柳の弁も頷ける。

桜木観光は高柳のこの生きざまと信条で、観光事業の前年比95%減という危機的状況をも、乗り越えていくことだろう。

(取材・文責/奥平。文中の敬称は省略しました。次回は高柳社長の紹介で(有)高山測量事務所を予定しています)

委員会活動報告

親睦企画委員会

平成23年4月24日(日) 焼津の鯉・島田のバラ園見学・藤枝の藤見学

震災復活支援桜木ツアーに参加して

4月24日(日)快晴の中、会員20名ビジター9名計29名で参加でバスツアーが行われた。

桜木観光のご好意で、月星会専用のバスを1台出して頂きました。

震災の影響か、予定より順調に進み、焼津で早めの昼食、目的地の島田バラ園に着きました。丘陵の中に展開された見事なバラ園、たくさんの蕾をつけ、開花の時は、見事と思えました。

つぎの蓮華寺公園は、ふじの花が有名な所です。丘の台地の小さな池があり、廻りに桜、桃の木が、随所に藤棚がありました。

つづいて最後の岡部タケノコ狩りに向かいました。高速に入ったとたん、事故の一報、それから始めて体験する渋滞、タケノコ狩りは中止、タケノコをお土産に頂いて、東名高速へ、予定より3時間遅れの11時着。すこし疲れましたが無事に帰宅できました。アクシデントがありました、楽しい1日でした。ご協力頂きました、会員各位、ビジターの皆様有難うございます。

翌日、桜木観光高柳社長から、ご協力頂いた義援金は後日、千葉日報にお届けするとのこと、お話を頂きました。皆様に心より感謝申し上げますとのことです。

(親睦委員会 栗原 勇)



朝食例会5月度報告

平成23年5月14日(土) ホテルグリーン・タワー幕張

本年度の朝食例会も、5月14日をもって全日程終了となりました。

最後の講師は、月星会とも縁の深い漫画家のさとう有作先生に楽しく漫画の書き方入門や漫画を読む(見る)際の見所などをお話いただきました。最後の最後で大いに盛り上

がった例会となりました。

さて、本年度の朝食例会を振り返ってみます。

新たな取り組みとして毎回、時にはシリーズで様々な外部講師をお招きしご講演を頂きました。国際情勢から千葉の歴史、企業防衛から漫画の書き方まで、まさに、他の会では聞くことの出来ない多分野にわたるお話を、それぞれの専門家からうかがうことが出来、概ね良い評価を頂くことが出来ました。

次に、会の補助を得て、今まで3,000円だった参加費が2,000円にすることが出来た点です。少なからず参加者の増にも繋がったことと思いますし、ふくろう募金へのご協力も増えたのではないかと思います。

また、3・11の震災の影響により、翌12日に予定されていた朝食会が行えなかったわけですが、次の4月度の朝食会は、阿佐会長のご英断により早い時期に実施の方向に持っていくことが出来ました。開催した時点では、必要以上の自粛ムードを懸念する声も出始めていましたが、実施を決めた時点では非常に重い判断だったと思います。

最後に、本年度の運営に協力してくれた副委員長の前野暉さん、林威樹さん、阿佐一郎さん、木内一晴さん、陰ながら応援してくれた土屋文武さんに感謝の意を表します。一年間、ありがとうございました。

(例会委員長 臼井正一)



6・7月のスケジュール

6/4(土)	平成23年度定時総会 18:00開会 会場:ホテルグリーンタワー千葉
6/8(水)	役員会 18:15開会 プラザ菜の花
6/11(土)	定例朝食会 7:00開会 参加費 2,000円 会場:ホテルグリーンタワー幕張
7/6(水)	役員会 18:15開会 プラザ菜の花
7/9(土)	定例朝食会 7:00開会 参加費 2,000円 会場:ホテルグリーンタワー幕張

会員異動 本社移転

山口金吾氏 有限会社光永建設
〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野3-10-3
TEL.043-488-6581 FAX.043-291-8577

編集後記

東日本大震災から2カ月以上を経過しましたが、いまだに新聞やテレビの報道は震災一色です。日本の針路を揺るがし、人々の心に生涯消えることがないであろう歴史的災害だったことは、このメディアの状況が如実に物語っています。わが会報も、震災関連の記事が中心です。特別寄稿にご協力いただいた御三方の玉稿には迫力があり、強く心に響きました。ご多忙な中での寄稿に厚く感謝申し上げます。

企業訪問で伺った桜木観光さんの「二次災害」の窮状には驚きました。しかし、高柳社長は本当に明るく、前向きでした。

山崎さんの御稿にもあるように、千葉県内にも酷い被災の痕が随所に残っています。被災地の惨状を目にするたびに誰もが「自分に何かができるか」の思いに駆られるのではないのでしょうか。やるべきことは自粛ではないことは確かです。まずは私たち自身が明るく元気に前進すること。その中から東日本復興のエネルギーが生まれるのだと思います。月星会は、その元気を醸成する格好の場だと確信します。(産方)